

【実施概要】

会議名	令和２年度三郷市立小・中学校通学区域編成審議会（適正規模・適正配置第３回）
日時	令和２年１０月５日（月）午後１時３０分～午後３時００分
場所	三郷市役所６階 全員協議会室
出席者	佐々木六男（会長）、鏡宏美（副会長）、肥沼武史、雄賀多恒郎、小堺正之、田村公平、内田和夫、前田雅久、小橋恒夫、加藤正、石田高幸、直井千秋
事務局	[教育委員会] 魚躬隆夫（学校教育部長）、浮田勝之（学校教育部理事兼副部長）、高橋英樹（学校教育部参事兼学務課長）、木原正裕（教育総務課長）、柳田徹（教育総務課副参事兼教育環境整備室長）、石山智仁（学務課学務係長）、藤田昇平（教育総務課教育環境整備室主事）

【議事内容】

１ 開会

事務局	三郷市立小・中学校通学区域編成審議会を開会いたします。
-----	-----------------------------

２ 会長あいさつ

事務局	会長よりごあいさつをお願いいたします。
会長	（会長あいさつ）

３ 会議の公開について

会長	会議の公開について審議いたします。事務局に説明を求めます。
事務局	（会議の公開について） 本日、傍聴の申し込みはありません。
会長	傍聴者がおりませんので、このまま議事を進めます。

４ 議題

（１）令和１０年度までの児童生徒数・学級数の推計について

会長	令和１０年度までの児童生徒数・学級数の推計について、事務局に説明を求めます。
事務局	前回の審議会において、学校の小規模化の進む地域としてお示した小学校５つの地域、中学校２つの地域について、令和１０年度までの児童生徒数・学級数の推計をまとめました。本日は、議題（２）も含め、どの地域から小規模化への具体的な検討を開始していくべきかという視点で審議していただきたいと思います。
	ア 検討対象地域（丹後小・前間小・後谷小）について 丹後小は、教室数が１９教室で昭和５６年開校、築３９年です。この中で、教室数については、各学校の保有教室から特別支援学級想定分を除いた教室数になります。

	推計では、令和３年度から令和６年度は標準規模校で、令和７年度から１１学級以下の小規模校になります。 前間小は、教室数が２３教室で昭和５９年開校、築３６年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校になります。この中で、令和３年度から令和５年度と令和１０年度は７学級になります。この７学級というのは、全学年単学級＋１学級ということで、いずれかの学年が２学級で、その他の学年は単学級であることを示しています。 後谷小は、教室数が１２教室で平成４年開校、築２８年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校で、いずれの年度でも６学級で全学年単学級になります。 この地域における市の関連事業としては、（仮称）三郷流山橋の建設や三郷料金所スマートインターチェンジのフルインター化の計画があります。 イ 検討対象地域（彦糸小・彦郷小）について 彦糸小は、教室数が１３教室で昭和５０年開校、築４５年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校になります。この中で、令和７年度から令和８年度は７学級、令和９年度から令和１０年度が６学級で全学年単学級になります。 彦郷小は、教室数が１９教室で昭和５５年開校、築４０年です。 推計では、令和４年度から１１学級以下の小規模校になり、令和１０年度には７学級になります。 この地域における市の関連事業としては、多世代交流複合施設の計画と三郷北部地区土地区画整理事業があります。また、みさと団地が「ＵＲ賃貸住宅ストック・活用・再生ビジョン」における「ストック再生」に位置付けられています。これは、独立行政法人都市再生機構（以下「ＵＲ都市機構」）が公表しているもので、令和１５年度までのＵＲ賃貸住宅ストックの活用・再生の方向性を示すものです。この「ストック再生」は、「建替え・集約・用途転換・改善」の４つの手法を複合的・選択的に実施しストック再生を進めるものです。このことについて、ＵＲ都市機構に問い合わせをしましたが、具体的なことについては何も決まっていないということでした。しかしながら、草加市の松原団地の建替え後の様子を見ると、子育て世帯を含む若い世代にも選ばれそうな外観であり、今後も注視していく必要があります。 ウ 検討対象地域（戸ヶ崎小・吹上小・前谷小）について 戸ヶ崎小は、教室数が１６教室で明治６年開校、現在の校舎は築５４年です。 推計では、令和５年度から１１学級の小規模校になります。ただし、令和１１年度からは１２学級で標準規模校に戻ります。 吹上小は、教室数が１２教室で昭和４７年開校、築４８年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校になります。この中で、令和７年度から令和９年度までは７学級、令和１０年度には６学級で全学年単学級になります。 前谷小は、教室数が１７教室で昭和５３年開校、築４２年です。
--	---

	推計では、令和１０年度まで標準規模校になります。 この地域における市の関連事業としては、三郷市南部地域拠点整備基本計画（以下「南部拠点整備計画」）に基づく整備予定地Ⅱがあり、戸ヶ崎小よりだいぶ北東で、前川中よりも更に北の方になりますが、防災機能、学校給食センター機能、コミュニティ機能などをもつ施設を検討していくことになっています。 エ 検討対象地域（八木郷小・鷹野小）について 八木郷小は、教室数が１０教室で明治２６年開校、現在の校舎は築４１年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校になります。この中で、令和９年度と令和１０年度が６学級で全学年単学級になります。 鷹野小は、教室数が２０教室で昭和４９年開校、築４６年です。 推計では、令和６年度から１１学級以下の小規模校になり、令和１０年度には９学級になります。 この地域における市の関連事業としては、南部拠点整備計画に基づく整備予定地Ⅰがあり、鷹野小の北側の地域に交通拠点機能をもつ施設を検討していくことになっています。 オ 検討対象地域（高州小・高州東小）について 高州小は、教室数が１６教室で昭和４４年開校、築５１年です。 推計では、令和３年度から令和８年度まで小規模校になり、その後、令和９年度と令和１０年度は１２学級の標準規模校に戻ります。 高州東小は、教室数が１５教室で昭和５５年開校、築４０年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校になります。この中で、令和９年度と令和１０年度が６学級で全学年単学級になります。 この地域における懸念事項としては、いずれの学校に統合しても教室数が不足することが挙げられます。 カ 検討対象地域（彦成中・彦糸中・瑞穂中）について 彦成中は、教室数が１７教室で昭和５０年開校、築４５年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校になります。 彦糸中は、教室数が２４教室で昭和５６年開校、築３９年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校になります。 瑞穂中は、教室数が１４教室で平成２年開校、築３０年です。 推計では、令和１０年度まで小規模校になります。 中学校については、全学年単学級の学校はありません。 この地域における市の関連事業としては、多世代交流複合施設の計画と三郷北部地区土地区画整理事業があります。また、みさと団地が「ＵＲ賃貸住宅ストック・活用・再生ビジョン」における「ストック再生」に該当しています。また、中学校は、学校選択制による影響を受けることがあります。
--	---

	キ 検討対象地域（南中・前川中）について 南中は、教室数が24教室で昭和22年開校、現在の校舎は築57年です。 推計では、令和10年度まで標準規模校になります。 前川中は、教室数が23教室で昭和57年開校、築38年です。 推計では、令和8年度から小規模校になります。 この地域における市の関連事業としては、南部拠点整備計画に基づく整備予定地Ⅰがあり、交通拠点機能をもつ施設を検討していくことになっています。 以上で説明を終わります。
会長	令和10年度までの児童生徒数・学級数の推計についての説明が終わりました。質問やご意見がありましたら、お願いいたします。
委員	2点お伺いいたします。1点目「多世代交流複合施設により児童生徒数が増えるのか」について、2点目「南部拠点整備計画に基づく整備予定地Ⅰの概要」について、もう少し詳しく教えてください。
事務局	1点目の多世代交流複合施設については、北公民館と北児童館があった場所に、子どもから高齢者までの多世代が交流できる施設を設けることは担当部署から聞いております。このことによって、児童生徒数が増えるとは言えませんが、この地域に子育て世帯を含む若い世代が少しでも増えていくことが期待されます。 2点目の南部拠点整備計画については、昨年度、パブリックコメントが実施され、現在、市のホームページに公表されているものです。この整備予定地Ⅰについては、鷹野小の北側の地域に、交通拠点機能をもつ施設ということで、導入機能例として、ドライバーの休憩機能や農産物直売所などが計画書に記載されています。住宅施設では無いので、住民が増える直接の要因にはなりません、市の南部地域の活性化につながることを期待されます。
会長	ありがとうございました。他にありますか。
委員	検討対象地域（丹後小・前間小・後谷小）については、児童数の推計から早期に対応すべき場所であると考えます。町会との関係を見ると様々な町会の区域が通学区域として入り組んでいる場所があります。このことから、どこの学校に統廃合するのかによって問題の起こり方が変わってくると考えられます。その点における事務局の考えについて教えてください。
事務局	事務局としても、学校と町会を含めた地域とのつながりについては、配慮していくべきものと認識しています。どこの学校に統合するかについては、本審議会の答申後に、検討対象地域において、新たに学区審議会を開くことを予定していますので、その中で審議していきたいと考えております。このことから、現段階において統合する学校は決まっております。
会長	ありがとうございました。他にありますか。
委員	中学校に関しては、学校選択制による影響があるとのことですが、学校選択制の中でも通学区域内の生徒を優先的に受け入れている状況だと思います。学校選択制を廃止して、学区制に戻した場合でも、この推計に変化はありますか。
事務局	学校選択制による影響は、現在の状況が今後も同じように続いていくとは言い切れず、

	推計が出しにくい要素であるため、あくまでも学区内に住んでいる生徒数で推計しました。
会長	ご質問は以上でよろしいですか。令和10年度までの児童生徒数・学級数の推計につきましては終了します。

(2) 地域別統合シミュレーションについて

会長	地域別統合シミュレーションについて、事務局に説明を求めます。
事務局	令和2年3月改定の「三郷市立小・中学校教育環境整備計画」上の各学校の児童生徒数及び学級数の推計を、各地域別に合算し、学校統合のシミュレーションを行いました。 ア 丹後小・前間小・後谷小の統合シミュレーションについて 敷地面積は、敷地が広い順に、丹後小が19,890㎡、前間小が15,883㎡、後谷小が14,011㎡です。 まず、前間小・後谷小の2校について、学校統合のシミュレーションを行いました。 教室数は、前間小が23教室、後谷小が12教室です。 統合する場合、学級数が12学級から13学級になり、標準規模校になります。教室数については、後谷小へ統合する場合は令和3年度と7年度に不足する推計です。 次に、丹後小を加えた3校について、学校統合のシミュレーションを行いました。 教室数は、さきほどの前間小、後谷小に加え、丹後小が19教室です。 この場合は、令和3年度から令和9年度までは19学級以上の大規模校になり、令和10年度以降は18学級以下の標準規模校になります。教室数については、前間小に統合する場合は足りませんが、丹後小に統合する場合は令和7年度まで不足する推計です。 イ 丹後小・前間小・後谷小・早稲田小（武蔵野線以北部分）の統合シミュレーションについて 先ほどの3校に早稲田小（武蔵野線以北部分）を加えた4校について、学校統合のシミュレーションを行いました。 統合する場合、令和24年度まで19学級以上になり、大規模校になります。教室数については、最も教室数の多い前間小の23教室でも令和13年度までは不足する推計です。 ウ 彦糸小・彦郷小の統合シミュレーションについて 敷地面積は、彦糸小と彦郷小どちらも15,500㎡です。 教室数は、彦郷小が19教室、彦糸小が13教室です。 統合する場合は、12学級から17学級になり標準規模校になります。教室数については、彦糸小に統合する場合は令和8年度まで不足する推計です。 エ 戸ヶ崎小・吹上小・前谷小の統合シミュレーションについて 敷地面積は、敷地が広い順に、戸ヶ崎小が16,789㎡、前谷小が14,037㎡、

	吹上小が12, 887㎡です。 まず、吹上小・前谷小の2校について、学校統合のシミュレーションを行いました。 教室数は、前谷小が17教室、吹上小が12教室です。 統合する場合は、12学級から18学級になり標準規模校になります。教室数については、前谷小であれば令和6年度から統合が可能ですが、吹上小では不足する年度がある推計となりました。 次に、戸ヶ崎小を加えた3校について、学校統合のシミュレーションを行いました。 教室数は、さきほどの前谷小、吹上小に加え、戸ヶ崎小が16教室です。 この場合は、いずれの年度でも20学級以上の大規模校になります。教室数については、いずれ学校でも不足する推計です。 オ 八木郷小・鷹野小の統合シミュレーションについて 敷地面積は、敷地が広い順に、鷹野小が16, 669㎡、八木郷小が12, 643㎡です。 教室数は、鷹野小20教室、八木郷小10教室です。 統合する場合は、14学級から18学級以下の標準規模校になります。教室数については、鷹野小の場合は統合が可能ですが、八木郷小の場合は不足する推計です。 カ 高州小・高州東小の統合シミュレーションについて 敷地面積は、敷地が広い順に、高州小が14, 867㎡、高州東小が12, 461㎡です。 教室数は、高州小16教室、高州東小15教室です。 統合する場合は、12学級から18学級の標準規模校になります。教室数については、令和10年度まではいずれの学校でも不足する推計です。 キ 彦成中・彦糸中・瑞穂中の統合シミュレーションについて 敷地面積は、敷地が広い順に、彦糸中が23, 866㎡、彦成中が23, 730㎡、瑞穂中が21, 183㎡です。 まず、彦成中・瑞穂中の2校について、学校統合のシミュレーションを行いました。 教室数は、彦成中17教室、瑞穂中14教室です。 統合する場合は、9学級から12学級になります。教室数については、どちらの学校でも統合が可能になる推計です。 次に、彦糸中を加えた3校について、学校統合のシミュレーションを行いました。 教室数は、さきほどの彦成中、瑞穂中に加え、彦糸中が24教室です。 統合する場合は、12学級から18学級の標準規模校になります。教室数については、彦糸中であれば統合が可能になる推計です。ただし、中学校については、学校選択制の影響による増減があり得ます。 ク 南中・前川中の統合シミュレーションについて
--	---

	敷地面積は、敷地が広い順に、前川中が24, 108㎡、南中が23, 953㎡です。 教室数は、南中24教室、前川中23教室です。 統合する場合、令和3年度から令和13年度までは、19学級から25学級の大規模校になり、令和14年度以降は18学級の標準規模校になります。教室数については、令和7年度以降であれば、南中で統合が可能になる推計です。ただし、中学校については、学校選択制の影響による増減があり得ます。 以上で説明を終わります。
会長	地域別統合シミュレーションについての説明が終わりました。質問やご意見がありましたら、お願いいたします。
委員	3校又は4校を統合する案も提示されましたが、1度に3校又は4校を統合するというのは現実的なのでしょうか。例えば、検討対象地域（戸ヶ崎小・吹上小・前谷小）は、令和25年度までいずれの学校でも教室数が不足する推計です。その辺りについて、どのように考えているのか教えてください。
事務局	今回は、各学校の教室数の上限を提示しながら、3校を統合した場合や4校を統合した場合も含めて様々なシミュレーションを行いました。その結果、検討対象地域（戸ヶ崎小・吹上小・前谷小）で3校を統合した場合は、少なくとも令和25年度までは20教室以上になり、いずれの学校でも教室数が不足する推計となりました。 また、検討対象地域（丹後小・前間小・後谷小・早稲田小（武蔵野線以北部分））で4校を統合した場合は、令和13年度まで24教室以上になり、いずれの学校でも教室数が不足する推計となりました。 このように、教室数が最も多い学校でも増築が必要となる場合や、19学級以上の大規模校になる場合については、まずは2校から検討を開始していくべきであると考えます。
会長	事務局で様々なシミュレーションをしたということですが、このような場合、まずは2校から検討を進めるべきであるというのは、他の委員の皆さんも同意見であると思います。他にありますか。
委員	検討対象地域（戸ヶ崎小・吹上小・前谷小）については、戸ヶ崎小が令和11年度以降、標準規模校になる推計であることから、吹上小と前谷小の2校で検討していくべきであると考えます。 検討対象地域（丹後小・前間小・後谷小）については、3校を1度に進めた方が町会などで起こる問題は少なく済むと思っていましたが、今回のシミュレーションから、まずは2校で検討していく方が良いと思いました。その後、全体を見直す機会にもう1回組み換え等をすべきであると考えます。 検討対象地域（八木郷小・鷹野小）については、八木郷小が伝統校なので、例えば鷹野小の校舎を使用し、八木郷小の学校名を継ぐことは検討しているのでしょうか。
事務局	検討対象地域（戸ヶ崎小・吹上小・前谷小）については、戸ヶ崎小が令和11年度以降、全学年2学級で12学級の標準規模校になる推計ですので、まずは、吹上小と前谷小の2校の統合を検討するというのが、確かに現実的であると感じます。 検討対象地域（丹後小・前間小・後谷小）についても、ご指摘のとおり、まずは、前間小と後谷小の2校で検討するという考えが現実的であると思いますが、丹後小も令和7

	年度以降は小規模校になることや町会等を考慮し、検討は、丹後小も含めて検討していくというのがよいのではと感じます。また、この地域については、(仮称)三郷流山橋や三郷料金所スマートインターチェンジのフルインター化等の市の関連事業が、この地域の活性化につながることを期待されます。 検討対象地域(八木郷小・鷹野小)については、2校の教室数を比較すると大きな開きがあり、鷹野小の方がかなり多い教室数です。ただし、八木郷小は明治26年開校の伝統校です。市の中で明治時代に開校したものは、早稲田小・八木郷小・戸ヶ崎小・彦成小の4校だけです。鷹野小の校舎を使用し、八木郷小の学校名を継ぐということを検討しているのかについては、具体的に、学校統合の検討を行う場合に、検討していくべきであると考えており、現段階では想定しておりません。しかしながら、学校の沿革については十分に配慮して議論していきたいと考えております。
会長	特に、八木郷小は、南北に長く、鷹野小との学区境になっている県道21号三郷松伏線を児童に横断させることは危険が伴うと思います。他にありますか。
委員	私も3校ではなく2校で検討するのが良いと思います。この中で、まずは2校を統合し、その後さらに1校を統合することを事前に決めておくのはいかがでしょうか。小学校は6年制ですので、例えば、6年後に次の学校に統合することを前もって決めておくという考え方です。
事務局	確かに、事前に決めておくというのも1つの方法であると思いますが、6年後の児童数や学級数がおおよそ推計通りに推移していくかというのを見極めていく必要もあるのではと感じます。このことから、まずは2校を統合し、次の1校をいつ統合するかについては、その時の状況を注視して決定すべきであると考えます。ご提案のありました考え方については、1つの方法として参考にいたします。
会長	事務局も先々のことを念頭において検討していくのが良いと思います。他にありますか。
委員	統合した学校がいつ開校する予定なのかについて教えてください。
事務局	本審議会では検討を開始していく地域が決まりましたら、今年度後半から令和3年度にかけて、その地域の学校統合を審議する学区審議会を開催する予定です。そこでより具体的な審議をし、統合する学校が決定すれば、統合準備委員会を組織します。そこでは、どのように統合するか、通学路をどうするのか等を検討します。このことから統合した学校の開校は、最短で令和5年度頃になるかと考えています。
会長	ありがとうございます。他にありますか。
委員	中学校については、令和10年度まで全学年単学級の学校はないようです。また、中学校は学校選択制の影響により、生徒数が増えている学校もあります。さらに、第2回の審議会で提示された三郷市と人口規模が近い自治体や近隣自治体との比較から、中学校は他市と比べても平均的な学校数であることが分かりました。このことから、まずは小学校から検討していくべきなのかなと考えます。
会長	他にありますか。
委員	小学校から検討すべきであるというのは私も同感です。また、現在から令和10年度の推計の中で、特に、全学年単学級のある地域については、クラス替えができるように、早期に具体的に検討を開始していくべきであると思います。特に、前間小・後谷小につ

	いては、後谷小が令和10年まで全学年単学級が続くことから、この地域から進めていくべきであると思います。市全体の状況を見ても住民等の了解が得られやすいのではと考えます。
会長	本日が3回目の審議になりますが、これまでの各委員の意見などをまとめると、中学校の方は、令和5年度以降、単学級がないことや学校選択制を導入している点から、すぐに検討対象としなくてよいのではと思いました。 小学校の方は、前間小・後谷小を先行して、検討対象地域にすべきであると考えます。そうすると、次に、吹上小を検討すべきであると考えます。児童数の観点からは戸ヶ崎小と前谷小では戸ヶ崎小の方が若干少ないですが、地理的に吹上小の隣にあるのは前谷小です。このことから、前間小・後谷小の後に、吹上小・前谷小を、次の検討対象地域にすべきであると考えます。 その次に、彦糸小が考えられますが、検討対象地域（彦糸小・彦郷小）については、みさと団地のストック再生計画をもう少し注視していく必要があると思いますし、「平成24年に統合したばかりなのに、またこの地域か」という住民心情があると思うので、この地域はもう少し先でも良いと考えます。 検討対象地域（八木郷小・鷹野小）については、統合すると大きな道路を横断して通学することになるので、通学路の安全が確保できない等の懸念があります。従いまして、この地域ももう少し先でも良いと考えます。 検討対象地域（高州小・高州東小）については、どちらの学校でも教室数が明らかに不足します。 以上のことから、中学校は現状のままとし、小学校においては、先行検討対象地域を前間小・後谷小、次期対象地域を吹上小・前谷小にすべきであると考えます。 その辺りの各委員のご意見はいかがでしょうか。
副会長	前間小と後谷小については、以前から「統合するのではないか」という噂があり、現在に至っています。検討対象地域に現在在籍している児童の保護者としては、令和5年度統合としてもまだまだ先の話であると感じます。また、その他の地域についても「自分の子どもの通う学校は統合の対象になっているのか」「いつから統合するのか」という噂ばかりが先行しています。今後、検討対象地域の保護者等に周知する予定があるのかについて教えてください。
事務局	本審議会の答申後は、先行して検討対象地域となる地域において、学区審議会を立ち上げますので、その際保護者等にも周知していきたいと考えております。その地域において、統合する学校が決定し統合のための準備段階に入れば、次の検討対象地域の学区審議会を開くなど、スピード感を持って取り組んでいくことが重要であると考えております。従いまして、本審議会においては、1つの地域だけではなく、できれば2つ以上の地域について答申を頂きたいと思います。
会長	我々は学校統合ありきではなく、学校の適正規模・適正配置の観点で審議しているところですので、その認識を再度確認して、審議していきたいと思います。事務局は、今回までの審議内容をまとめ、答申（案）を作成してください。
事務局	承知しました。次回までに答申（案）を作成し、そのことについて、さらに審議して頂

	きたいと思います。
委員	私も統合シミュレーションをしてみました。市の町会の区域図に学校の場所を記載してみたのですが、このようにすると、学校・町会・地域の関係が良く見えてきます。先ほども触れましたが、戸ヶ崎小は現状のままとするのが良いと思います。また、次回の審議会では町会の区域も提示してほしいです。私の町会も、町会と通学区域が分かれたことによって苦勞しておりますので、そのようなものも判断材料として提示してほしいです。
事務局	承知しました。次回は、答申（案）と併せ、検討対象地域における町会の区域と通学区域の関係をまとめ提示したいと思います。
会長	ご質問は以上でよろしいですか。 地域別統合シミュレーションにつきましては終了します。 以上で本日の議題は全て終了いたしました。

5 事務連絡

会長	事務連絡について、事務局からお願いいたします。
事務局	（事務連絡）

6 閉会

会長	以上をもちまして、本日の審議会を終了いたします。閉会にあたり、副会長にごあいさつをお願いいたします。
副会長	（副会長あいさつ）
会長	ありがとうございました。皆さんお疲れさまでした。

以上